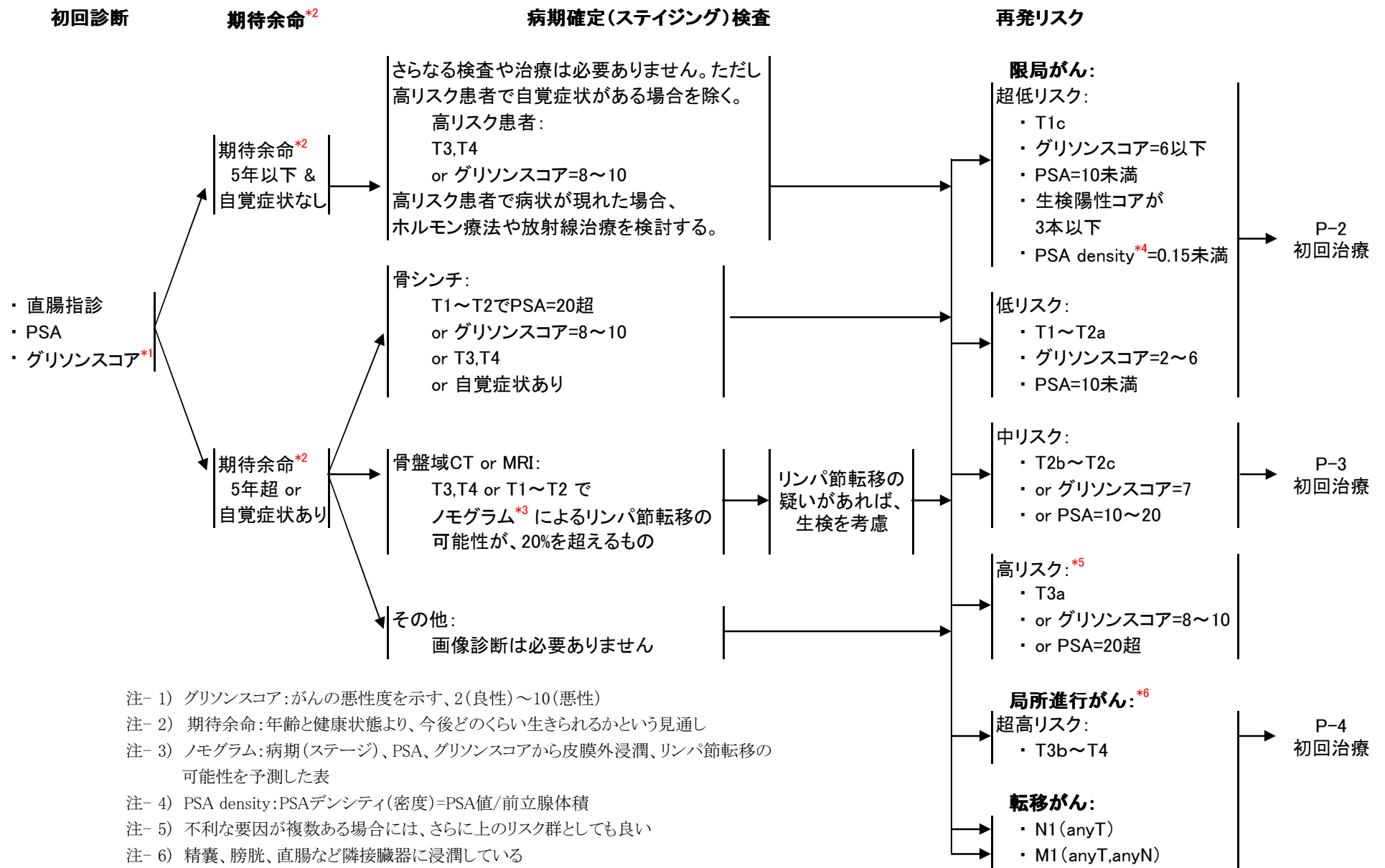


PROSTATE CANCER

■ 前立腺がん治療フローチャート ■

NCCN Guideline 2010 日本語版

訳: ひげの父さん



注- 1) グリソンスコア:がんの悪性度を示す、2(良性)~10(悪性)
注- 2) 期待余命:年齢と健康状態より、今後どのくらい生きられるかという見通し
注- 3) ノモグラム:病期(ステージ)、PSA、グリソンスコアから皮膜外浸潤、リンパ節転移の可能性を予測した表
注- 4) PSA density:PSAデンシティ(密度)=PSA値/前立腺体積
注- 5) 不利な要因が複数ある場合には、さらに上のリスク群としても良い
注- 6) 精囊、膀胱、直腸など隣接臓器に浸潤している

再発リスク

期待余命

初回治療

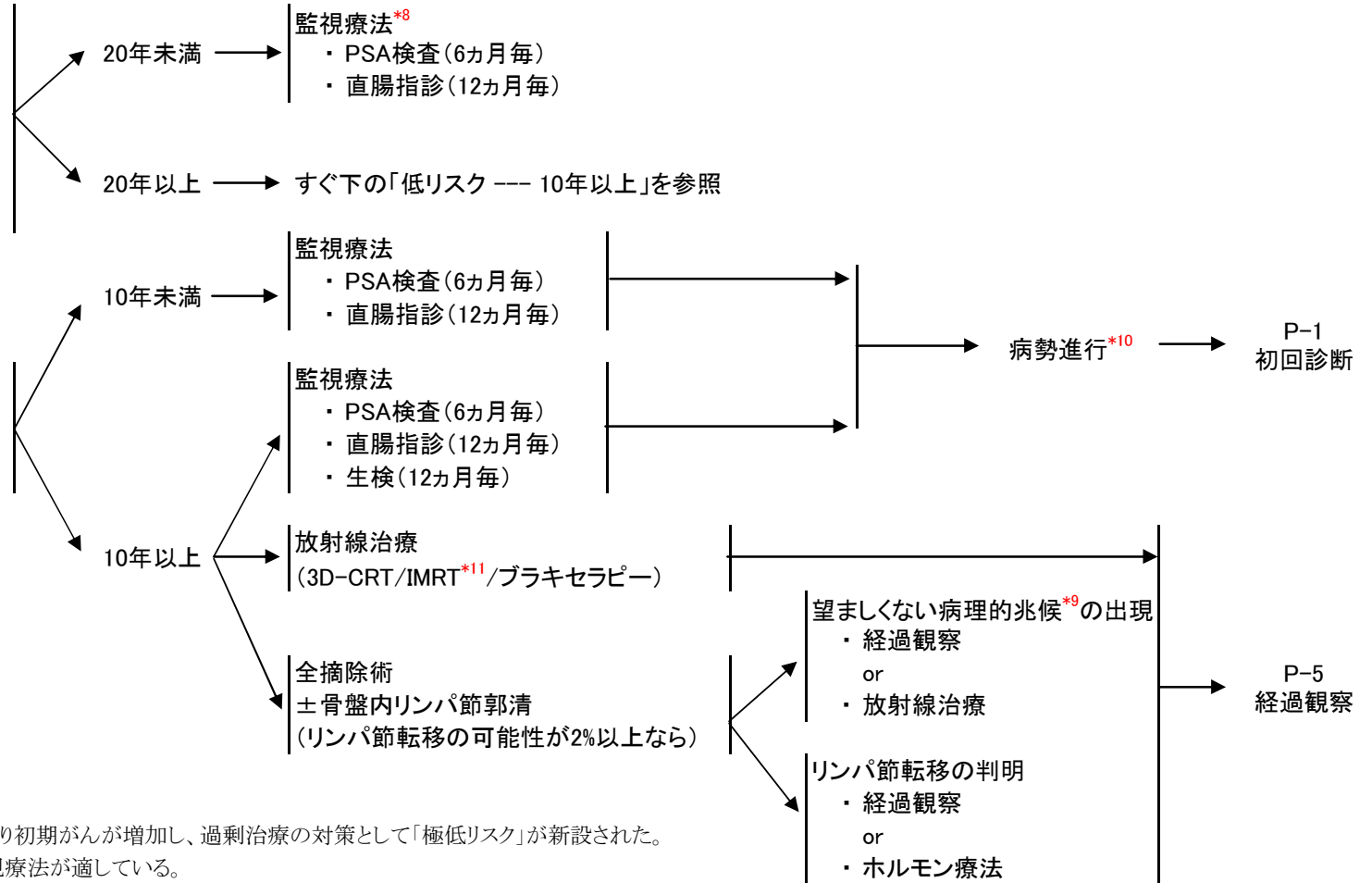
限局がん:

超低リスク^{*7}

- ・ T1c
- ・ GS=6以下
- ・ PSA=10未満
- ・ 生検陽性コアが3本以下
- ・ PSAD^{*4}が0.15未満

低リスク

- ・ T1~T2a
- ・ GS=2~6
- ・ PSA=10未満



注- 7) PSA検査の普及により初期がんが増加し、過剰治療の対策として「極低リスク」が新設された。
こうした患者には監視療法が適している。

注- 8) 監視療法とは、病態進行時における介入を前提とした積極的な経過観察を意味する。
がんの進行がない限り、急いで治療する必要はない。

注- 9) 望ましくない病理的兆候とは、断端陽性、精嚢浸潤、皮膜外進展、PSA値上昇など

注- 10) 病勢進行の基準は不明確で医師の判定を要する、しかし、リスク分類の変更は病の進行を強く示唆する。

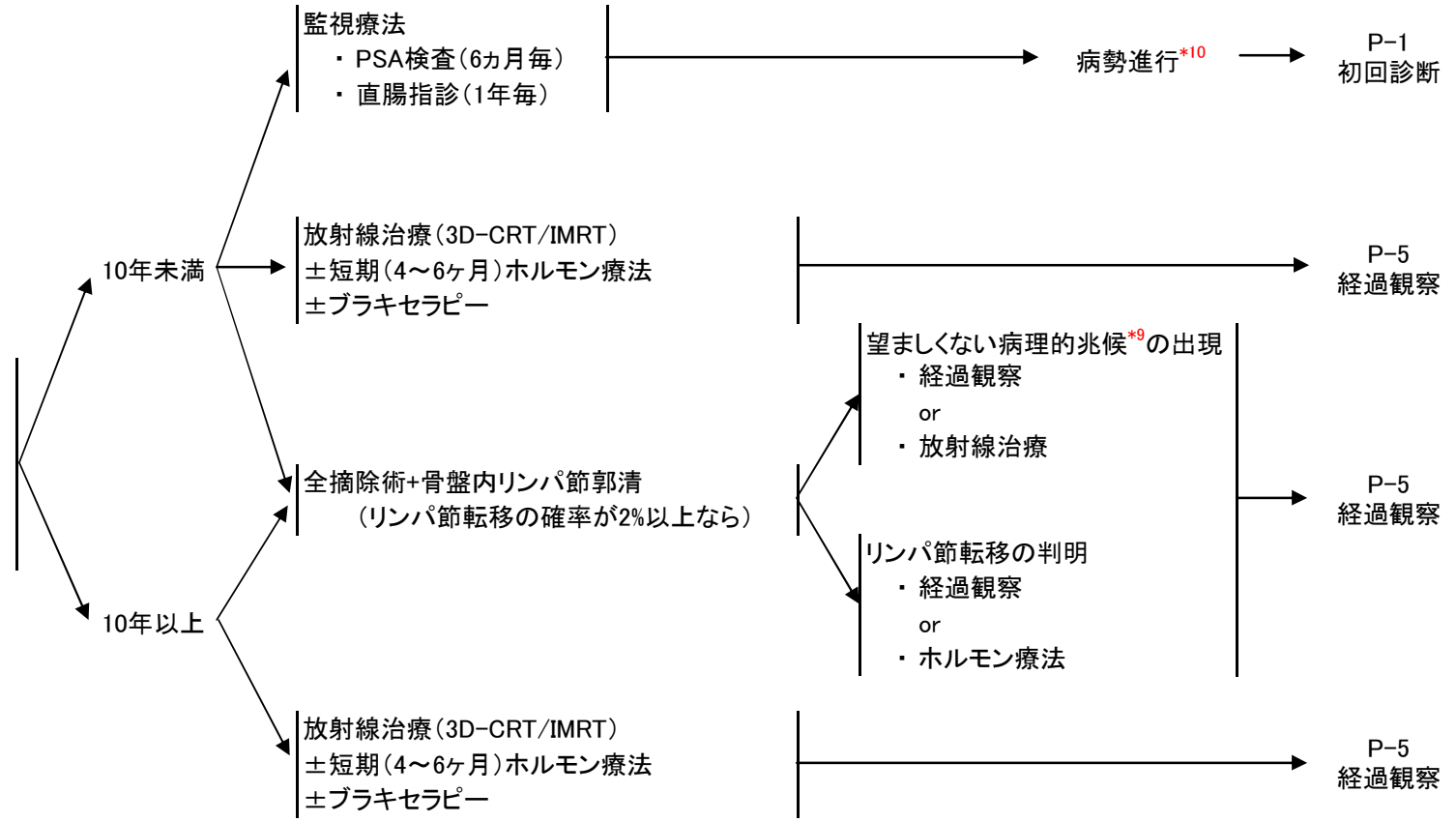
注- 11) 3D-CRT/IMRTはコンピュータ補助による高精度外部照射。画像誘導による位置合わせを毎日行う。

再発リスク

期待余命

初回治療

限局がん:
中リスク
・ T2b~T2c
or
・ GS=7
or
・ PSA=10~20



再発リスク

初回治療

補助治療

限局(局所浸潤)がん:

- 高リスク:^{*5}
- ・ T3a
 - or
 - ・ GS=8~10
 - or
 - ・ PSA=20超

放射線治療(3D-CRT/IMRT)
+長期(2-3年)ホルモン療法

or

全摘除術
+骨盤内リンパ節郭清(可能な限り)

望ましくない病理的兆候^{*9}の出現

- ・ 放射線治療
- or
- ・ 経過観察

リンパ節転移の判明

- ・ ホルモン療法
- or
- ・ 経過観察

→ P-5 経過観察

PSA検出レベル
に至らず → P-5 経過観察

PSA検出可能 → P-6 救済療法

- 局所進行がん:^{*6}
- 極高リスク
T3b~T4

放射線治療(3D-CRT/IMRT)
+長期(2-3年)ホルモン療法

or

全摘除術
+骨盤内リンパ節郭清(可能な限り)

or

ホルモン療法

望ましくない病理的兆候^{*9}の出現

- ・ 放射線治療
- or
- ・ 経過観察

リンパ節転移の判明

- ・ ホルモン療法
- or
- ・ 経過観察

→ P-5 経過観察

PSA検出レベル
に至らず → P-5 経過観察

PSA検出可能 → P-6 救済療法

- 転移がん:
(リンパ節転移)
N1(anyT)

ホルモン療法

or

放射線治療(3D-CRT/IMRT)
+長期(2-3年)ホルモン療法

→ P-5 経過観察

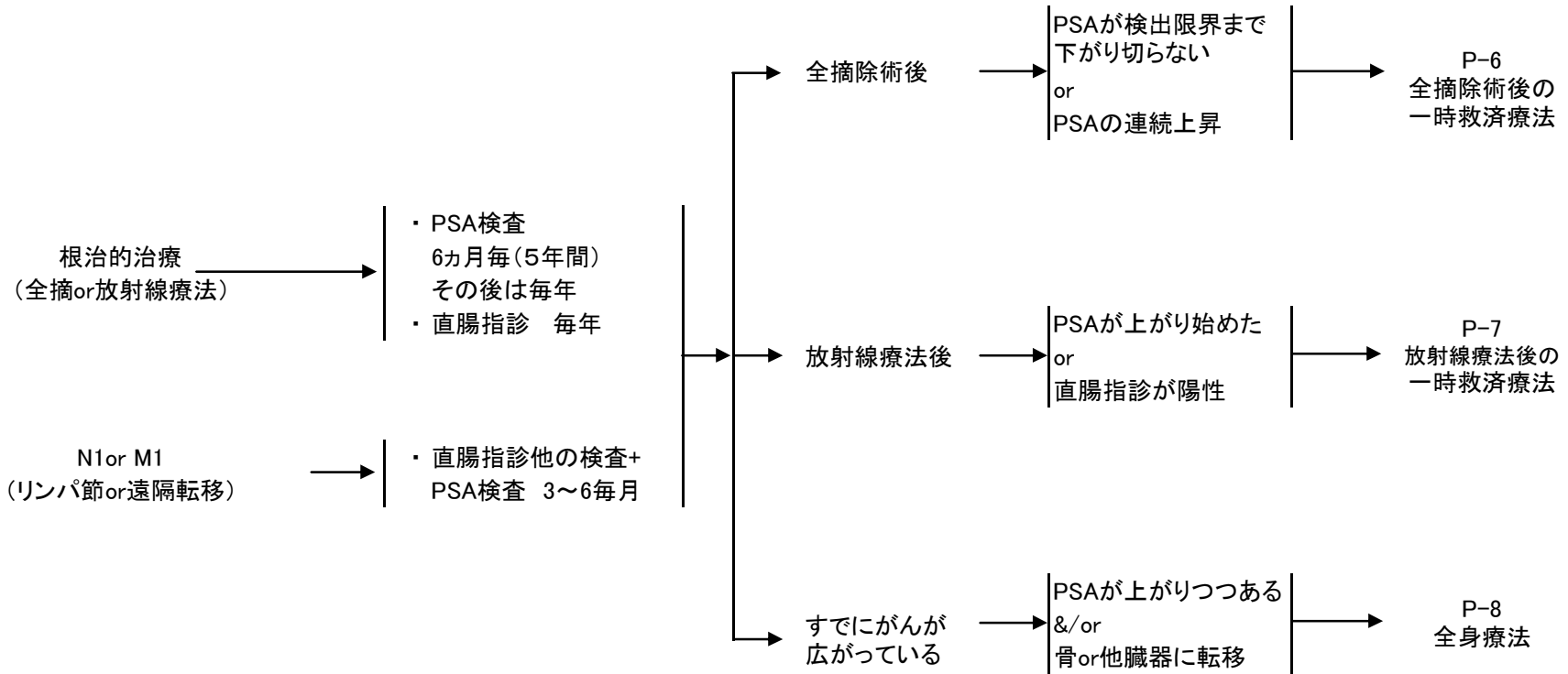
- (遠隔転移)
M1(anyT,anyN)

→ ホルモン療法

初回治療

経過観察

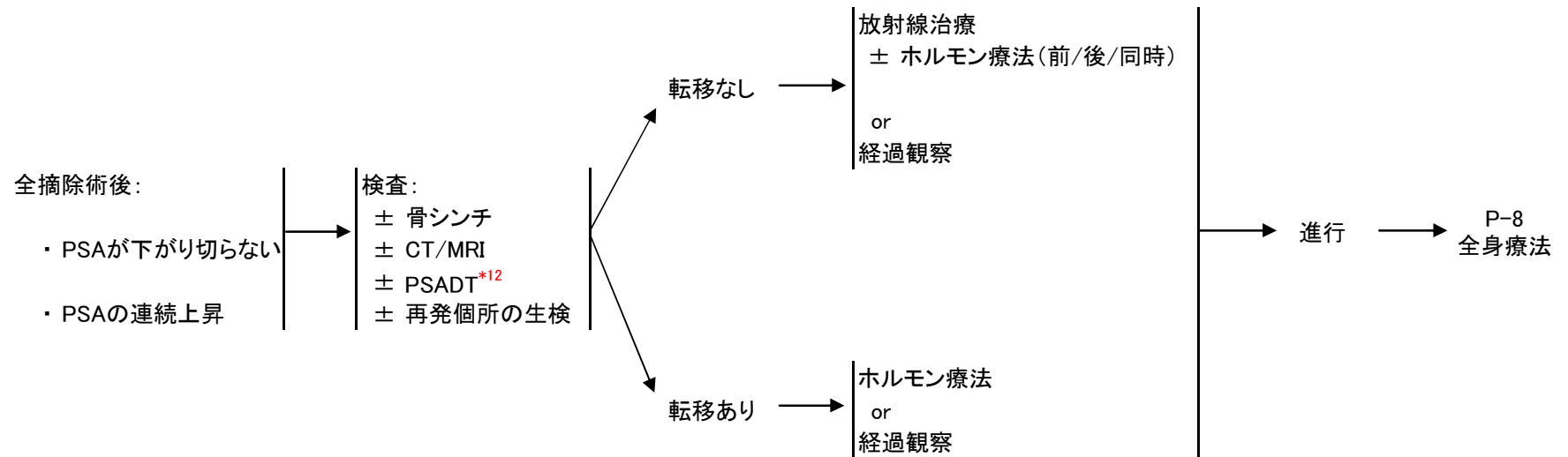
再発



全摘除術後の再発

検査

一次救済療法

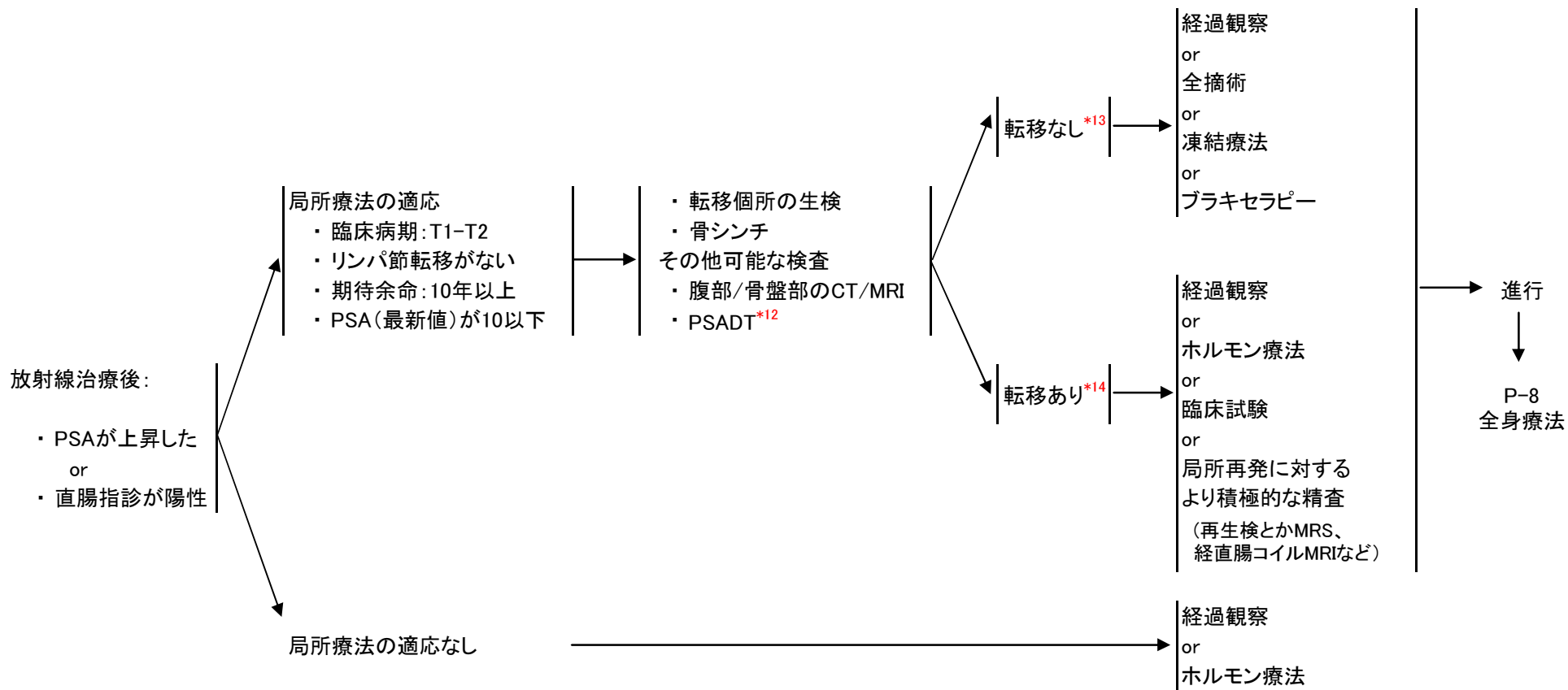


注- 12) PSADT:PSAダブリングタイム、PSA値が倍増するまでの期間

放射線治療後の再発

検査

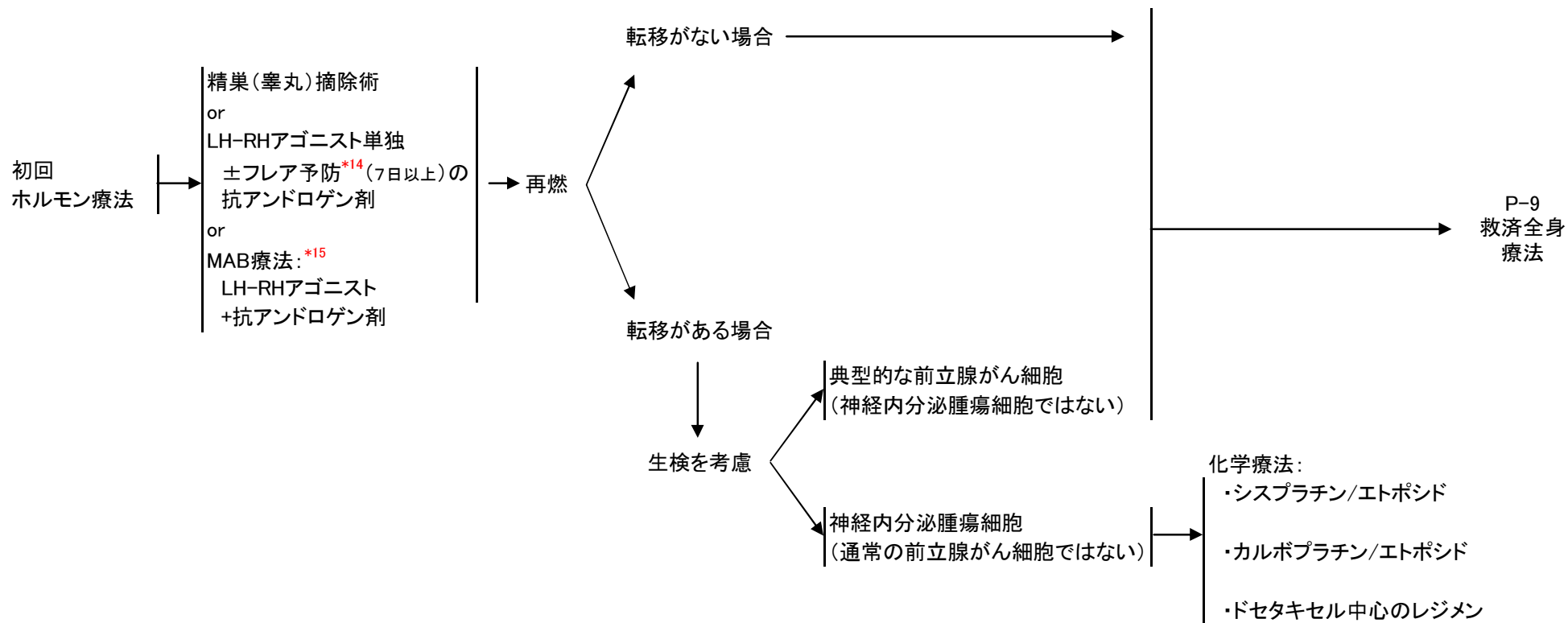
一次救済療法



注- 13) がんはまだリンパ節やその他の身体の部位に広がっていない
 注- 14) がんはすでにリンパ節あるいは他の身体の部位に広がっている
 (例えば、骨や肝臓など)

全身療法

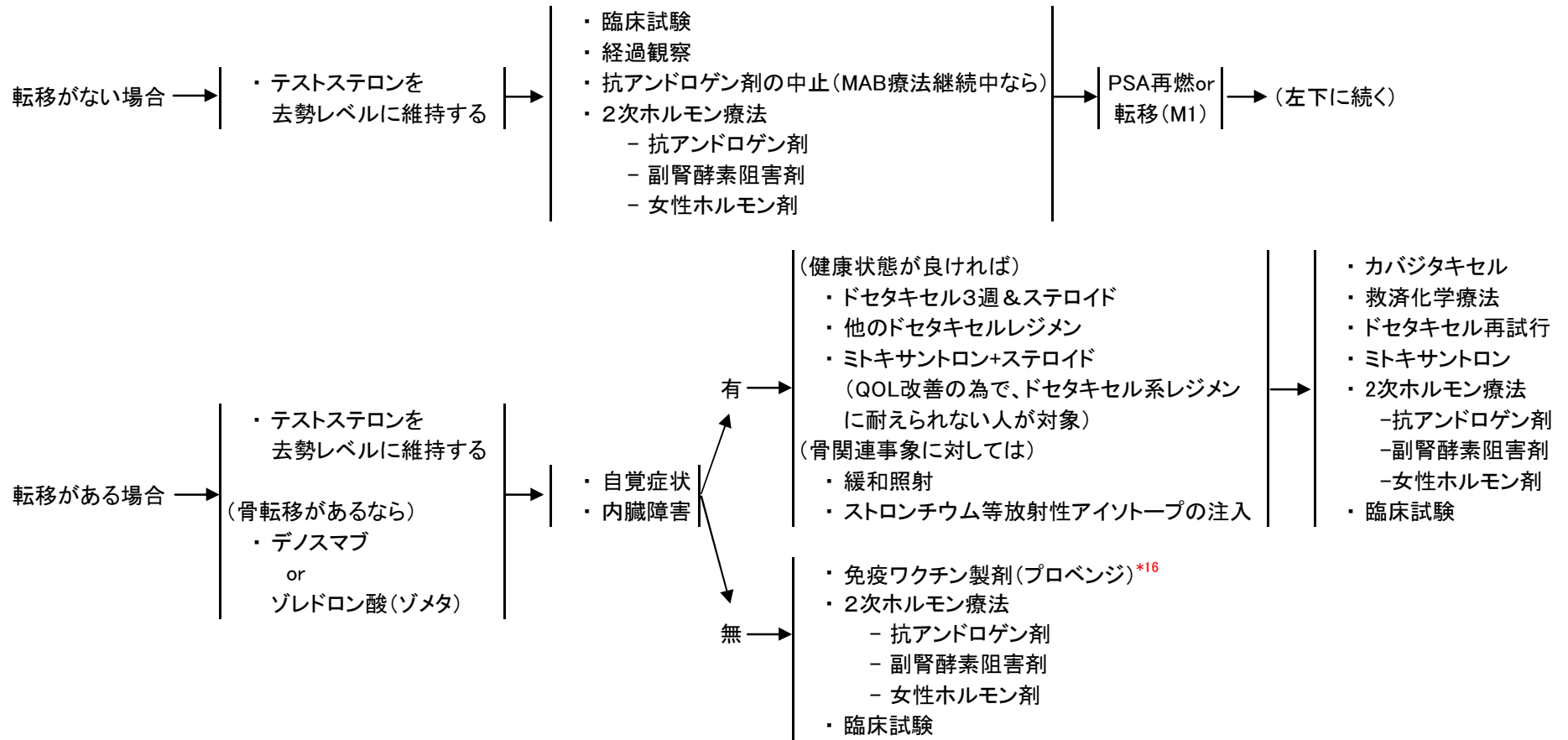
救済全身療法



注-14) フレアアップ現象: LH-RHアゴニスト剤の影響で、一時的にテストステロンが増加する現象

注-15) MAB療法: 複合(maximum)アンドロゲン遮断療法。C (combined) AB療法ともいう。

(再燃前立腺がんに対する)救済全身療法



注-16) 免疫ワクチン製剤(プロベンジ)は、自覚症状がほとんどなく全身状態が良好な患者を対象とし、内臓障害がある場合や、期待余命が6ヵ月未満の患者には推奨されていない。